

北京師範大学珠海分校視察報告

田中 一裕（新潟大学）

新潟大学創生学部は、入学後に自然系・人文系の枠を越えて自由にカリキュラムを構成することが可能である。そのため他学部以上に初年次教育は大変重要な位置づけとなっている。一方、今回視察をおこなった北京師範大学珠海分校教育学部¹では、入学時に第1希望以外で入学してきた学生に対して、効果的な初年次教育を実施しており、高い成果をあげている。北京師範大学珠海分校教育学部の教授3名のインタビュー調査にもとづき、北京師範大学珠海分校の初年次教育の特徴を明らかにする。

キーワード：初年次教育、カリキュラム、動機づけ

はじめに

新潟大学創生学部は理系文系の枠を問わず入学することが可能であり、入学後、2年次に専門領域学修パッケージ、3年次にプロジェクトゼミ、4年次にソリューションラボを選択するなど自分自身の4年間の学修カリキュラムを構成する。その一方、選択肢の多さからカリキュラム構成や、専門領域の選択、将来の進路について悩みを抱えている学生も多い。このように選択肢が多く、自主的に4年間のカリキュラム構成が求められている創生学部において、現在の指導では不十分な部分が散見され、今後学生のカリキュラム構成や進路実現をサポートする初年次教育の在り方の修正が、早急に必要であると考える。

また今回北京師範大学珠海分校においてインタビューを実施した。北京師範大学珠海分校では入学時の成績により希望学部へ入学可能となるが、教育学

部では第1希望で入学してきた学生は20%程度であり、さらに1年次における学部間移動が可能であるにもかかわらず学部間移動をほとんどおこなわず、他学部からの流入も多い。最終的にはほとんどの学生が教師となり卒業していく。このような北京師範大学珠海分校における教育理念、カリキュラム、初年次教育の方針など、創生学部初年次教育で参考にすべき点について考察をおこなう。

新潟大学教育学部は、2000年の北京師範大学珠海分校の開学以来交流を深め、2008年に学部間交流協定を締結して交換留学、教師相互派遣、学生訪中団派遣に取り組み、2014年には大学間交流協定へと発展させている。2018年度には訪中団に創生学部生が2名参加し、今後も選択科目「地域・国際交流B」において創生学部も交流を深めていく予定となっている。本調査は、北京師範大学珠海分校の初年次教育の視察を目的として、2018年度新潟大学国際交流事業²に参加し、北京師範大学珠海分校の視察と、

¹ 北京師範大学珠海分校オリジナルサイト
<http://www.bnuz.edu.cn/> (最終閲覧日: 2019年3月22日)

² 2018年度新潟大学国際交流事業日程表
9月20日(木)
14:45 新潟空港発、15:40 成田空港着
17:55 成田空港発、21:45 広州白雲空港着
9月21日(金)
08:30 南奥実験学校訪問 (~12:30)
★学校視察 ★授業交流 ★検討会
★初年度教育についての聞き取り調査
14:00 広州市文化施設見学
9月22日(土)
07:00 広州南奥高爾夫酒店発
09:00 佛山市文化施設見学 (~12:00)

14:00 北京師範大学珠海分校訪問 (~17:30)
★日中文化交流発表会 ★大学視察
★初年度教育についての聞き取り調査
9月23日(日)
08:30 北京師範大学珠海分校発
09:00 中山市社会教育施設見学 (~11:00)
14:00 珠海市社会教育施設見学 (~18:00)
★社会教育についての聞き取り調査
9月24日(月)
09:00 京華苑大酒店発、12:00 広州白雲空港着
14:15 広州白雲空港発、19:45 羽田空港着
21:40 東京駅発、23:56 新潟駅着
参加人数
新潟大学学部生 14名 (うち創生学部生 2名)

初年次教育担当者へのインタビュー調査を実施した。

北京師範大学珠海分校の概要³

(1) 概要

北京師範大学珠海分校は広東省珠海市にある北京師範大学⁴の分校である。2000年に北京師範大学と珠海市人民政府の共同で珠海市に北京師範大学の新校区を開設された。2001年北京師範大学珠海教育園区が設立され、2004年に北京師範大学珠海分校に改称された。2015年に特色ある総合的な研究型大学となり、現在も建設が続いている。北京師範大学の「世界一流大学の建設」という壮大な目標の一部分を担っている。珠海分校では北京師範大学の提出した「国有資源、学校経営、市場運営、モデルの全面改定」の大学経営理念のもと、「質を似せて生存を求める。創造を以って発展を求める。双赢の関係を以って協力を求める」という発展理念を堅持するとしている。

(2) 分校について

中国にある分校という名称は別の校区（キャンパス）という位置づけではなく、本校から完全に独立した大学という位置づけである。分校は、本校とパートナー関係をもち、本校のノウハウや教員を活用している。この分校の形態は、中国では独立学院とよばれて、このような独立学院は2012年末時点ですでに303校が存在しており、2002年入学生までは本校が卒業証書を発行していたが、教育部の規定により2008年4月からは卒業証書・学士学位証とともに独立学院が発行している。

(3) 2016年中国两岸四地大学ランキング

最新の2016年中国两岸四地（中国大陆・台湾・香港・マカオ）大学ランキングにおいて、吉林大学珠海学院・河南理工大学万方科技学院・四川大学錦江学院・北京師範大学珠海分校・雲南師範大学商学院・燕山大学里仁学院・武漢科技大学城市学院・華南理工大学広州学院・中国传媒大学南广学院・浙江大学城市学院・南京大学金陵学院及び中山大学南方学院等が2016年中国五つ星独立学院の栄誉を受け、中国の一流独立学院の地位に登りつめたことを示す

ている。中国の一流独立学院とは、中国における総合力が一流で、学校運営水準が一流である民営高等教育機関であり、全国の独立学院の中における優秀な代表校であることを示している。

(4) 北京師範大学珠海分校の教育方針

珠海分校は、北京師範大学が提案した「資源国有、学校主導、市場運営、および新モデル」を確立するという方針のもと、学校の発展において「学校の建設と発展における教育モード」、「管理モードと運営メカニズム」、「国際協力」、「産業、大学と研究の統合の改革」を進めている。

(5) 教育革新と才能訓練

北京師範大学の優れた伝統を受け継ぎ、教育省の指導のもと、事実、改革、革新から真実を追求し、教育方法、管理方法、国際協力、生産、教育、研究の統合を実施している。

① 教育革新の原則

- A. 国際化の原則：海外の有名な大学の質の高い教育資源を活用し、またその専攻や課程を紹介し、多様な国際協力モデルを実施する。現在、米国、ドイツ、英国、カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、その他の国々、香港、マカオの多くの高等教育機関（大学）との協力関係を確立している。
- B. 適用可能な原則：市場の需要に基づき経済、科学技術、社会開発のニーズに適応し、人材育成の実用性を重視している。
- C. 地域化の原則：珠江デルタとその周辺地域の社会経済開発に知的で才能のある支援を提供している。
- D. パーソナライゼーションの原則：学生の独立した研究・開発のため、最大の選択肢を提供している。

② 教育と教授システム

- A. フレキシブルな学習システム：従来の学年制限を取り払い、生徒は学校生活の中で学年数を決め、規定の3~8年以内に、必要単位取得により卒業することができる。
- B. セカンダリープロフェッショナルの選択：入学後、所定の時間と手順に従って、セカンダリー

教員 9名

³ 北京師範大学珠海分校オリジナルサイト

<http://www.bnuz.edu.cn/xsgk.htm> (最終閲覧日：2019年3月22日)

⁴ 1902年「京師大学堂師範館」として創立。1912年に「北京高等師範学校」と改称。1923年「国立北京師範大学」。中華人民共和国

成立後、1950年に「北京師範大学」、1952年天主教輔仁大学と合併。北京大学、清華大学、中国科学院とともに北京四大大学と称される。新中国建国後に国家によって設立された最初の教育大学であり、100年を超える歴史を持ち、教育部と北京市政府の支持を得て、世界一流の総合大学の建設を目指している。

- プロフェッショナルの選択を行うことができる。
- C. クレジットの相互認識：同じ専攻科目が、異なる専攻分野で提供されており、各専攻は他の専攻科目取得を認めている。
- D. 自己選択コース：すべての一般選択科目は、すべての学生が選択可能となっている。
- E. サービス学習：社会的（コミュニティ）サービスプロセスにおける「学習」により、学生の社会的能力を伸ばすことを目指す。
- F. 学生のカリキュラム構成：自分の目標に応じて、コース内容をデザインし、独立した教育活動を組織し、独自に学習形態を選択でき、道徳的発達、身体的精神的発達および専門的能力を育成することができる。
- ③才能訓練の目標
- A. アプリケーションの種類：社会的ニーズを課題として、才能を育成するために産業界と協力する。一般教育と職業訓練の組み合わせに焦点を当て、多様な職業資格訓練や職業訓練などをおこなうことで、基本的な知識と実践力を身につける。

- B. 外向的：国際基準に沿った教授計画を採用し、外国人教師におけるコースではオリジナルの教科書とバイリンガルな教授法を導入し、学生の国際ビジョンと現代の競争意識を促進する。
- C. 複合タイプ：専門的な訓練の実施に加えて、多数のマイナーコース、ダブルメジャー、ダブルディグリーコースを提供する。
- D. アカデミックタイプ：徹底した専門的な知識により、学生の学術研究の興味を刺激し、卒業後、国内外の大学に進学して研究を進め、大学院での研究を進めることができる。

（6）設置学部などについて

現在、北京師範大学珠海分校における設置学部は次の通りである。

教育学部、文学部、情報技術研究所、国際ビジネス学部、経営学部、不動産専門学部、法学部、デザイン学部、芸術学部、工学部、外国語学部、応用数学学部、ロジスティクス学部、スポーツ・レジャー学部、政治・市民教育学部、中国-カナダ協力学校プロジェクト、中国-ドイツ協力学校プロジェクト、北京研究開発センター、総合教育センター、ソンチンリン慈善教育センター、継続教育大学、未来地球研究所である。

（7）海外への留学先について

	協同学校	
1	台湾セントラル大学	79
2	台湾 Fu Jen University	72
3	Jingyi University、台湾	87
4	台南応用科学大学	41
5	プラガンサ工科大学、ポルトガル	32
6	新潟大学	70
7	セントマリー大学、カナダ	4
8	ナントスクールオブマネジメント	5
9	レンヌ第一大学、フランス	8
10	Comptons University、マドリード、スペイン	2

<http://www.bnuz.edu.cn/xxgk.htm> より作成

北京師範大学珠海分校初年次教育について

（1）入学時における併願制度

北京師範大学珠海分校では入学試験の際に、学部間での併願が可能となっている。教育学部を第1志望とする学生は全体の20%程度で残りの80%の学生は、第2志望・第3志望として入学している。中国の若者全般において、教育学部の希望者は少ない。ただ近年は、北京師範大学北京本校より希望者は多くなってきており、教師教育では中国でNO.1になる可能性を持っていると、担当教員は考えている。

学部の中では、特に幼児教育希望者が最も少ないが、卒業の時には70~80%が幼稚園教諭となっている。学生は北京師範大学珠海分校に入学することが最優先であり、幼児教育は最も希望者が少ないが、卒業生は大変優秀であると評価されており、就職では大変人気があり現場からの求人が数多い状態である。

（2）入学後の学部間移動制度

大学入学後半年で、専攻を変えることが可能となるシステムを取っている。1年の専攻科目を2年次の履修に変更することが可能となる。教育学部においては、プラスマイナス同じ程度で推移しており、人数的には10数名程度の出入りがあるが、最近は教育学部に入ってくる学生が多くなっている。教育

学部を第1希望として入学していない学生が多い現状であるにもかかわらず、学部間移動で他学部へ移動しない現状であり、初年次教育が効果的に働いていると考えられる。

(3) 初年次教育の内容

初年次教育では、入学後に「大学の歴史」や「教師の役割」について詳細にかつ具体的に教えることを重点化している。

現在、北京師範大学珠海分校は教育界において大変有名となり、全国でもトップクラスの大学となっている。そのため、初年次教育として「教師の仕事の理解」や「保障されている賃金」、「教師になることを好きにさせること」について時間をかけている。「子どもにとって教師や教育の在り方が、子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、「社会における教育や教員の役割、使命感」などを1年次の中で具体的にかつ実践的に理解することを目指している。特に「教育哲学」など教師の仕事の重要性や、子どもたちに与える影響など理解を深めさせることや、4年間の学習における自分自身の役割や社会への貢献などについて詳細に考察させることが、学生自身がこれまで受けってきた教育を内省する働きを持ち、強い動機づけをおこなうことになっている。

また中国で育った学生に自分の受けた教育を客観的に考えさせるために、3年前から「外国の小中高校の教育事情について」の講座を開講している。多様な教育の内容や方法論などを学ぶことで、就職後の実践的な力の育成を心がけている。さらに近隣の小中学校の授業参観や、小学校での週2回インターンシップ的な学びが、多くの学生が教師を目指す動機づけになっていると考えられる。

学生の学力上昇のためには、総合的な教育が必要であるという認識のもと、一般教養と応用のバランスでは一般教養の割合を多くしている。

(4) 小中学校の教師の実態

中国における小中学校の教師の80%が女性であり、希望者も女性が多い。教育学部系の学生の実力は高く評価されており、社会における身分・地位的なものが高く保障されている。また実際に留学など積極的な学生が多く、企業においても高い評価を受けている。

(5) 教職大学院の開設

2019年度より、教職大学院の開学を予定している。定員は100名(現在全学在籍数900名、教育学部310名)。かなりの大規模になるため、今後新潟大学の教

職大学院のカリキュラムや内容、方法などから学ぶことが多いあると考えている。

(6) 新潟大学との連携

今後、教師養成の研修システムの開発が求められていることから、新潟大学との交流をさらに発展させ、融合カリキュラムの作成や共同研究をおこなっていく予定である。特に研究分野での共同開発に期待をしている。



Figure 1. 胡学亮教授、吳忠魁教授